

通院治療も公費で

厚生省の方針 水俣病に全額負担

厚生省は水俣病患者の今後の治療について万全を期すため、このほど入院治療だけでなく、通院治療費も全額公費で負担する方針を決め、十五日までに熊本県衛生部から水俣病治療実施計画の提出を求め、大蔵省や関係各省と折衝を始める。

水俣病は有機水銀加工物の中毒による中枢神経障害で、工場廃水で汚染された魚を大量に食べたことが原因とされ、三十一年に熊本県水俣湾沿岸漁民の間に発生した。患者はこれまでに百五人（うち死亡三十七人）で、患者の治療対策として三十三年から市立水俣

病院に特別病舎を設置、入院治療費を全額公費でまかなってきた。現在入院中のものは二十七人で、残りは自宅から通院治療をしている実情なので、通院治療費も国、県、市が三分の一ずつ負担し、全額公費でみようというわけ。通院治療費も公費負担しているのは原爆患者と結核患者の一部だけである。

◇元水俣病患者家庭互助会長渡辺栄蔵さん（ふじ）水俣市湯堂、漁業の話 もっと早くから国がめんどろをみてはしかった。現在でも二十七人の患者が水俣病専用病室（水俣市立病院内）に入院している。これらの患者には国の保護もあるが、在宅患者は四十八人もおり、いまままで何らの保障もなかった。こんご通院治療費などが全額公費で負担されるようになるのだから家族の中に三人の患者を持つている私の家庭も少しは助かると喜んでいる。

◇熊本医学部水俣病研究班長

那教授の話 在宅患者にまで治療の手を伸ばすという厚生省の考え方は非常にいいことだ。在宅患者の治療を熊本が担当することになれば研究面でも大きなプラスになるが、もし水俣市立病院でやるにしても、間接的にいろんなデーターを手に入れることができよう。厚生省の考えがぜひ実現することを願っている。

◇県環境衛生課の話 入院患者だけにしぼられている治療費の公費負担を在宅患者にまで広げようという話はかなり以前からあったが、四日厚生省から電話があり、このことはまだはっきり決まったわけではないとのことだった。入院患者の治療費は三十七年度に百四十二万二千元（国と県分だけ）が支出されている。